

君津中央病院広報誌

ク ロ ー バ



Vol. 13

2009年1月発行

編集・発行

君津中央病院

☎ 0438 (36) 1071

<http://www.hospital.kisarazu.chiba.jp>



理念

私たちは良質で安全な医療を提供し
地域の皆さまに親しまれ、
信頼される病院をめざします。

基本方針

1. 接遇とサービスに心がけ、心が安らぐ癒しの環境を整えます。
2. 高度で良質なわかりやすい医療を提供します。
3. 包括医療を実践し、地域との連携を大切にします。
4. 救命救急医療体制の確立と小児、周産期及び終末期医療の充実をめざします。
5. 職員の教育・研修を推進し、自己研鑽に努めます。
6. 病院で働く人が一体となり、経営の健全化と満足感のある職場をめざします。

《今号の表紙》

【ドクターヘリ】

救急専用の医療機器を装備したヘリコプターで、救急医療の専門医・看護師が同乗し、救急現場等に向かい、現場から救命救急センターに搬送するまでの間、患者に救命医療を行うことのできる専用ヘリコプターです。ドクターヘリの導入により、重篤救急患者の救命率の向上及び後遺障害の軽減や、広域的患者搬送を迅速に行うことが可能となります。



日本医療機能評価機構

認定第JC295号
(一般病院)
2004.08.23 -
2009.08.22

JCQHCとは、市民が
適切で質の高い医療を安
心して享受できるよう、
医療機関の機能を学術的
観点から評価する第三者

診療科紹介

救急・集中治療科

■ 救急・集中治療科の役割と診療体制

千葉県には9つの救命救急センターがありますが、当院は人口32万4000人を要する袖ケ浦・木更津・君津・富津市を医療圏とする救命センターです。

域内の重症救急患者さまは、ほぼ全てが当院に搬送されます。救急外来には、年間17,000人の救急外来受診者数があり、うち救急車で搬送されてくる件数は年間約4,000件です。

これらの患者さまに対して、外科系・内科系・循環器系・脳神経系・産婦人科・新生児科・小児科・救急集中治療科の各科が当直体制を整え協力して診療しています。そのうち私たち救急・集中治療科は重症外傷・薬物中毒・心肺停止などの疾患や、他院から重症で処置困難であると紹介されたりした患者さま約1,100人を担当しています。このうち約半数が交通事故・労災・傷害などの外傷の方です。これらの患者さまを院内各科の医師と連携しながら、常勤4人、非常勤2人で対応しています。また、院内で発生した多臓器不全などの重症患者さまの治療や、大手術後の術後管理も集中治療室において行っています。



当院は臨床研修指定病院であり、卒後1・2年目の初期研修医が常に研修をしています。

救急患者の診療を通じて、初期研修医の教育も併せて行っています。

また、大災害に対応する千葉県DMATチームの一員として、災害時の出動に備えています。



■ 教育体制

救急集中治療科では、医学部生を対象としたクリニカル・クラークシップにより救急医療の実際を医学部学生に実地で学んでもらう実習を積極的に行っています。また、卒後1年目の初期研修医は救急集中治療科での研修は必須とされており、さまざまな救急患者さまを通じ、スタッフの指導下で医療の研鑽を積んでおります。院内のみならず、地域の病院前救護のレベルアップを図るべく、病院前外傷教育プログラムのコース（かずさJPTEC）や心肺停止に対する蘇生のコース（きみさらずICLS）を主催しています。

救急集中治療科スタッフには、学会認定によるこれらのコースを主催できるような人材がおり、地域の救急隊、初期・後期研修医、看護師などのコメディカルスタッフの教育も行っております。

さらに、救急救命士の就業前・就業後研修を行ったり、現場活動中の救命士に助言や指示を与えるなどの臨床教育を通じ、地域の救急診療の質的向上を図っていくのが当科の目標の一つです。

ドクターヘリについて

■ ドクターヘリ

2008年8月に、千葉県では2機目になるドクターヘリの配備が当院に決定しました。

ヘリコプター到着15分圏内には南房総地域を中心とした千葉県の大部分、東京や神奈川の一部が含まれ、より広い範囲からの救急受け入れが可能となります。ドクターヘリは2009年1月下旬から運行しています。

病院に搬送するまでに症状が悪化したり、緊急の処置を必要とするような患者さまに対して、現時点では現場で対処する手段はほとんどありませんでした。ドクターヘリ導入により、現場まで医師が出向いて緊急処置を行い、さらに迅速に病院へ搬送することで、重症患者さまの救命率の改善が期待されます。

■ フライトナース研修に参加して 3階西病棟 三田 一貴

当院にドクターヘリが導入されることになり、平成13年よりドクターヘリを運航している千葉北総病院に研修に行ってきました。皆様もテレビドラマで“フライトナース”という言葉を目にしたことがあると思います。日本でドクターヘリに看護師が同乗したのは、昭和62年に岡山県の川崎医科大学付属病院が最初で、当時は“フライングナース”と呼ばれていました。しかし、試行的事業であったので長くは続きませんでした。その後、阪神・淡路大震災の際に患者搬送にヘリコプターを生かせなかった教訓から、旧厚生省により全国各地にドクターヘリが導入されることになりました。11月下旬の研修初日にまず目に飛び込んできたのは、救急



外来からヘリポートまで続く青いラインとドクターヘリでした。脳裏でテレビドラマが思い浮かんだのと同時に、一段と緊張感が増しました。研修中、1日に5回出動することもありました。ドクターヘリは陸路による搬送よりも、明らかに治療開始・搬送時間が短縮できます。それらを維持するには、フライトドクター・ナース、消防そして運航スタッフの連携が重要であり、臨時ヘリポートとなる周辺住民の方々の理解・協力が不可欠であることを学びました。ドクターヘリの目的は、患者さまを現場で診断し初期治療を開始することです。フライトドクター・ナースは災害・事故現場や患者さまの収容された救急車内で医療行為を行います。フライトナースとして選ばれた4名は、限られた空間・資材・人員の特殊環境下で初期治療を開始し、病状に応じた病院に搬送するための研修を受けてきました。病院外での活動には不安もありますが、皆様の期待に沿えるようがんばっていきます。



診療科紹介

歯科口腔外科

最近、時折テレビや新聞等で口腔外科の名前がでることが増え、認知度も上がってきたとは思いますが、まだまだご存知ない方も多いと思います。歯科口腔外科と聞くと、「怖い・・・」「歯を抜くところ？」などとイメージされる方が多いと思います。実際、親知らずの抜歯は当科で行う代表的な処置のひとつではありますが・・・。

私達の仕事は口腔の健康を守ることです。会話をすること・・・当たり前。食事を摂る事・・・当たり前。その当たり前のことがうまく出来なくなったとき・・・口内炎ひとつ思い出していただいてもお分かりのように、想像以上のストレスにおそわれます。当科（院内では略して歯口科“しこうか”と呼ばれています）は、一般歯科と口腔外科的疾患を中心に診療しています。一般歯科診療（矯正歯科を除く）は、病院歯科という特性を活かし、主に全身疾患を有する患者さま等を対象に診療各科の協力を得て行っています。

また、口腔外科的疾患としては、智歯周囲炎（おやしらずの痛みや腫れ）、顎関節症（開閉口時の顎の痛みや開口障害）、顎顔面の外傷（顔や顎の怪我や骨折）、顎や口の中の腫瘍性疾患、炎症性疾患、インプラント（人工歯根）などについて、専門的に診療しております。（紙面の都合上、各疾患について詳しくは当院ホームページ内の歯科口腔外科をご覧ください。）

口腔は全身を写す鏡といわれます。開口時の疼痛などを引き起こす顎関節症も様々な要因から発症します。事故でも、顎の骨だけが折れているといった症例ばかりではありません。全身疾患を有する方への治療ではもちろん、内科系外科系を問わず全ての科と連携し、協力を得て診療を行っています。診療に必要な情報があれば近隣の病院、医院、歯科医院の先生方とも連携を取り、よりスムーズで安全な診療を受けていただけるよう心がけています。

また、糖尿病教室、母親学級においても、歯周病の予防や口腔ケアについて歯科衛生士

がお話をさせてもらっています。



こんな歯科口腔外科の外来は2階にあり常勤医3人が月曜日から金曜日まで行っています。7階西病棟が主な入院病棟となっています。

外来、病棟とも、明るく細かい気配りのできるやさしいスタッフがそろっていますので、どのようなことでもお聞きになってください。



外来スタッフ



病棟スタッフ



5階東病棟師長
森地 陽子

私は長年産科病棟で働かせていただいております。4つ子ちゃん・3つ子ちゃん・双子ちゃん・500gの赤ちゃん・4300gの赤ちゃんなど、多くの赤ちゃんとの出会いがありました。あの時の赤ちゃんは、今、どうしているだろう、元気に大きくなってきているだろうか等、時々思い出しながら新生児室にいる赤ちゃんを見えています。母親と生まれたばかりの赤ちゃんを抱く事が出来、共に喜びました。その感動と幸せは今も全く変わりありません。赤ちゃんを見ていると夢と希望を感じ、たくさんの癒しをもらえます。赤ちゃんから元気をもらって日々働く事が出来るのです。

ここで、5階東産科病棟の紹介をさせていただきます。当院にはNICUがあり地域周産期センターとして活動しています。近年、医師不足・母体搬送・新生児搬送の問題が取り上げられ、時々報道されています。当院も地域周産期センターとしての役割を、重く受け止め、母児の生命を守るため日々奮闘しています。病棟は30床で産科単科です。母児異室制・母乳栄養主義をとっています。母親学級や外来の保健相談等も行っています。病棟スタッフは、とてもユーモアがあり、笑顔で皆さまと関わらせていただいております。



産科の新生児室にいる赤ちゃんたちは、私だけでなく、スタッフたちにも夢と希望を与え、こころを癒してくれています。一人でも多くの赤ちゃんとかかわらせていただけるよう、地域の皆さま、これから赤ちゃんを産む予定の方には、ぜひ当院での分娩をお願いしたいと思います。これからの産科医療に携わるものとして、少しでもお役に立てるよう努力してまいります。



5階東病棟スタッフ



医療福祉相談室

病気になると病気そのものの不安だけでなく、健康な時には考えられなかったような心配事が起こります。このような心配事について医療福祉相談室では医療ソーシャルワーカー（病院で働く福祉の専門職）が、患者さま・ご家族さまよりご相談をお受けしています。

たとえばこんな時・・・

- 医療費や生活費など経済面の不安がある
「急な入院で入院費の支払いに困っている」
- 退院後の生活に不安がある
「自宅での療養を続けたいが家族だけで介護できるか心配」
「他の病院や施設を探しているが、どうしたらよいか」
「職場や学校に復帰するのに心配がある」
- 家族や人間関係のことで悩んでいる
- 各種福祉制度について知りたい
- どこに相談していいかわからない

・・・など

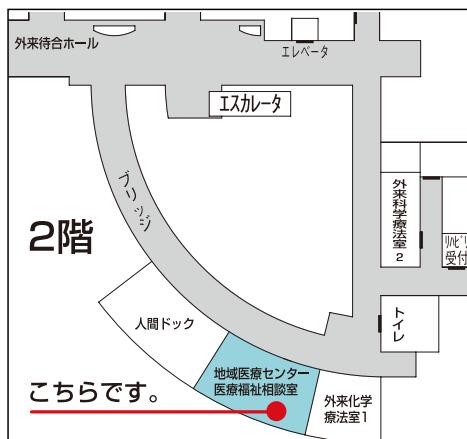
患者さまやご家族さまのお話をうかがい、問題点を整理し、解決へのお手伝いをいたします。問題の解決にあたり、医師、看護師等院内スタッフとの連絡調整、関係機関との連携を図ります。また、がん相談支援センター、難病相談支援センターの相談窓口としてもご相談をお受けしています。

◆ 相談時間 ◆

月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く） 午前9時～午後5時

◆ 相談場所 ◆

2階化学療法室の隣にあります地域医療センター「医療福祉相談室」をお訪ねいただき、医療ソーシャルワーカーをお呼び出してください。



- ※ 相談時間を十分にいただくため、事前に電話でのご予約をお勧めします。
電話相談も可能です。
- ※ 相談は無料で秘密は厳守します。



私達におまかせください！

君津中央病院附属看護学校

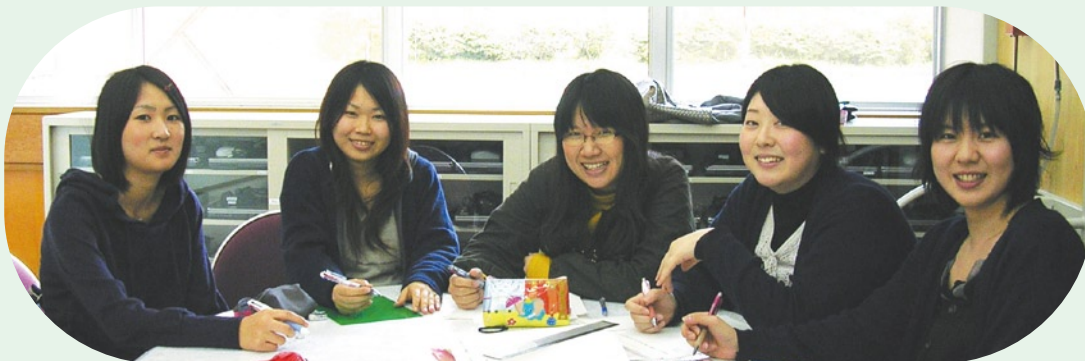
平成21年度の入学生から、新カリキュラムがスタートします。新しい分野に「統合分野」が入ります。新カリキュラムでは就職した時に現場とのギャップが無いような教育内容に変わります。

当校の2年生はこれから約1年間にわたる臨地実習の最初の1クール目が終了しました。

「患者さまの笑顔がみられて嬉しかった」「ベッドメイキングが上手になった」「知らない人とも話せるようになった」「病気に詳しくなり、友達に相談されるようになった」「応急処置ができるようになった」「実習を通して目標とする看護師と出会えた」「いろいろ気づかせてもらえた」と実習の感想を述べています。



3年生は約1年間にわたった臨地実習も終了し、入学して「友達の輪が広がった」「観察力がついた」「空気が読めるようになった」「自分の健康管理・対処の仕方を考えられるようになった」「友達の大切さ、協力することの大切さを学んだ」「少しのことでへこまなくなった」「いろいろな年齢層の患者さんとの出会いで教えて頂くことが多かった」「自分の周囲の人の病気・健康に関心が持てるようになった」とたくましく成長しています。当校は看護師に是非なりたいと考える方を、きめ細やかな指導体制で支援いたします。



院内コンサートのお知らせ

昨年12月20日（土）に、君津中央病院1階中央待合ホールにおいて「君津ラテンジャズ同好会」によるクリスマスコンサートが開催されました。多くの視聴者の皆さまが来られ、楽しんでいただきました。

次回のコンサートは、3月に木更津東高校音楽部による演奏を予定しております。どなたさまもお気軽にご参加ください。



大佐和分院よりお知らせ

ドック受付中
0439-65-1251

現在日本は、急速に超高齢者社会に向かっており、医療・介護保険ともに財源難が深刻化しており、入院日数の制限を受け急性期（高度な医療を用いて病態の改善を図らなければ生命にかかわる時期）は病院に入院治療し、慢性期（退院後自宅にて療養・闘病生活を送る・自宅で最期を迎える）には、かかりつけ医（医師）を始めとする医療チームが定期的に訪問し医療を行う在宅医療にて、高齢者が自宅や居宅としての老人施設で安心して生活できる環境作りが求められています。

当院の在宅医療について3回に分けて紹介します

当院では、医師がご自宅にお伺いし行う訪問診療、看護師がお伺いし行う訪問看護、理学療法士がお伺いし行う訪問リハビリテーションを近隣医療機関や施設と連携体制を採って行っています。

1. 訪問診療

君津中央病院大佐和分院では在宅で療養される患者さまを主な対象として訪問診療（往診）を実施しております。急な病気で御家族が入院した後、元通り元気に回復してくれば何の問題もない訳ですが、特に御高齢の方では入院した原因の病気そのものが治っても足腰が弱って寝たきりになってしまったり、食事が食べられなくなってしまうという事がよくあります。

入院の原因となった病気が治ってしまえばいつまでも入院していることは現在の医療制度上難しいわけですが、退院後施設に移ろうと思っても入所が可能な施設は何十人待ちということも珍しくありません。さりとて家に連れて帰って家族だけで介護するのも不安……こういったときに当院の訪問診療や訪問看護・リハビリがお役にたてるかもしれません。

基本的には月1回の定期診察に伺いますが、床ずれの悪化やその他の体調不良時には臨時の往診（または看護師の訪問）を行います。患者さまの病状、または住所などにより受入れ可能な条件は異なりますので、訪問診療を希望される方はあらかじめご相談を頂きますようお願いいたします。

（なお、少ない人数で在宅医療を運営しているため、定期往診以外の方の急病に関する往診依頼には対応いたしかねますのでご了承ください。）



編集後記

年も明け、新しい1年がスタートしました。
今号でも紹介させていただきましたが、ドクターヘリも始動しました。気持ちも新たに、前向きに頑張っていきたいと思います。
今年も「C l o v e r」のご愛読よろしくをお願いいたします。
みなさんにとって良い一年となりますように。

(M・S)

